

安倍晋三元首相が、参院選の応援演説中、銃撃され亡くなられた。治安のよい、また、銃規制が厳しい日本で起こるとは思えない事件であった。誰もが、安倍元首相の政治理念に反対するテロだと思ったのではないか。現行犯として捉えられた容疑者、山上徹也の動機は、母親が統一教会の信者になり1億円を超える献金をさせられ、家庭が崩壊し、自分の人生も狂わされ、これに怒った結果の犯行であるという。統一教会は世界平和統一家庭連合に名称変更し、その総裁を務める韓鶴子氏を殺そうとしたが、できなかったのも、その連合（以下旧統一教会）と深い関係を持つ安倍元首相を殺害のターゲットに変更したという。犯行は、個人的に募った恨みを爆発させたということであった。事件後、メディアは銃撃事件の扱いより、旧統一教会に圧倒的な関心を寄せて報道している。旧統一教会が日本の政界におどろおどろしい影響を与えている実態が露呈されることになった。

80年代、靈感商法や多額な献金を強要する統一教会から信者を脱会させる運動に牧師たちは熱心に取り組み、その活動報告集会が持たれ、私も、2～3回、出席したことがある。集めた巨額のお金を使用する最終目的は何かと聞いたが、納得できる返答は得られなかった。また、統一教会の信者を脱会させるために、拉致・監禁したとして両親と二人の牧師が人権侵害を訴えられた裁判があった。信者の若者が両親を激しい言葉で責め立てたのを記憶している。裁判は当然、勝訴した。また、横浜港南台教会に統一教会の若者が来た。彼女は統一教会のエリートコースを歩んでいた。『統一原理』を読みましようと言われ、数回、二人で読書会をしたことがある。私には彼女を脱会させられず、専門の牧師に依頼し、後に、脱会したと母親から連絡を受けた。信者たちは洗脳されているから、態度は硬直し、感情表現に乏しい感じがした。統一教会の洗脳システムの見事さに感嘆した。オウム事件以来、統一教会に関する報道は聞かなくなった。

ところが、安倍元首相の銃撃事件後、旧統一教会と政治家たちとの関係が深いことがリアルになった。殊に、安倍派の国会議員に多い。岸田首相は、旧統一教会との関係を清算するつもりで組閣したが、任命された大臣たちに大勢の関係者がいた。関係の濃淡はあるが、もはや旧統一教会と関係のない組閣はできないような状況である。国会議員だけでなく、地方議員にも食い込んでいることが分かった。選挙の時、ボランティアで手伝ってくれるそうで、立候補者としてはありがたいだろう。しかし、当選すれば、それなりの恩義ができる。それが、重なって関係は深まり、抜き差しできない状況を生んでいく。旧統一教会としては、著名な政治家と関わる自分たちの宗教は認知されていると宣伝できる。

統一教会は、韓国の文鮮明氏が、キリスト教の新興宗教として出発させた。当初は、反共思想で、時の軍事政権に取り入り、米国の共和党大統領たち、日本の岸信介元首相らにも食い込んでいた。現在も、旧統一教会の集会にトランプ前大統領や安倍元首相がビデオメッセージを送っているのも、深い関係が継続している。また、旧統一教会は夫婦別姓や同性婚に反対し、ジェンダーの自由を認めない家庭論を強力に押し進めている。G7で、最も遅れている日本は、旧統一教会の家庭論を踏襲しているのではないかと思わされる。旧統一教会は自分たちの政治、社会理念を実現することを最終目的にしているようだ。その戦略は実に巧みでパワフルであるが、これらの主張と運動に惑わされてはならない。

最後に三つのことを確認したい。①信仰は恐怖からではなく、喜びが生み出すものである。②信仰は洗脳されることではなく、「私自身」をしっかりと確立することである。③神は死者を苦しめたりはしない。大きな祝福の中で憩っているから、安心していい。